

九条の会

2006・11・28

第 80 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303
TEL 03-3221-5075
FAX 03-3221-5076

充実した「セミナー」に共感と感動

今後の開催に期待の声も

「九条の会」初の「憲法セミナー」が 11 月 25 日に開かれ、参加した約 800 人は、「九条の会」呼びかけ人やゲストのあいさつ、講演に聞き入りました。

《加藤周一さんのあいさつ》

「九条の会」は仲間を広げることと一人ひとりの考えを深めることをめざしているが、「セミナー」はその後者をめざすもの。そのため問題提起だが、9 条を守ることは対外関係をどのようにするかと密接に関連しており、①憲法をそのままに独立する、②憲法はそのままだが従属状態もつづく、③改憲して独立を強める、④改憲しても従属的態度をとる——の 4 つの選択肢がある。改憲派がめざすのは④だが、一番現実的で未来のために必要なのは①ではないか。

《澤地久枝さんの講演》

憲法は第一次大戦後の平和でありたい、軍事力はいらないという人類の悲願を体現したもの。この憲法を変えようというのはアメリカにつき従ってアメリカの傭兵のように戦争に行くためだ。戦死者やその遺族

を訪ねて聞いた戦争の悲惨な実態を紹介してきた者として、それを若い人たちに自分につながる話として伝えることの重要性を痛感している。評論家の丸岡秀子さんのおばあさんは「苦勞を泣かせるな」という言葉を口ぐせのように言っていたというが、私は「憲法を泣かせるな」と言い、勝つまでは意思を捨てないことを強調したい。

《辻井喬さんの講演》

教育基本法で政府が賛成発言を組織するなど、日本の社会は退廃、墮落の兆候がみられる。5 年で憲法を変えるのは無理と思うが、教育基本法を変えたら 20 年くらいで主体性が奪われたおとなが育ち、改憲は成功すると彼らは計算しているのではないか。狂信的で国粹的な日本をつくることは幻であることをはっきりさせなければいけない。憲法でも、よく説明すれば圧倒的多数が護憲派だ。メディアのハカリにのって「社会主義か自由主義か」といった一種の脅迫に惑わされてはいけない。護憲の側も、たとえば伝統には創造の源になるものもあり、タブーをもってはならない。そして若者の可能性を引き出すために努力したい。

「セミナー」参加者の感想

(一部要約させていただきました)

▼澤地さんのたたみかけるような、内容の濃い、学問的な話、そして戦争中の人びとの思い、大変感動しました。「憲法を泣かせるな」「あきらめるな」を、私も考え続けていきたいと思いました。辻井さんの、教育基本法と憲法の話、大変わかりやすかった。憲法を守ろうという良識の側にタブーがあるというのは大変納得。セミナーをずっと続けてください。(65歳・女・主婦)

▼私は友人と超ささやかな「九条の会」をつくっています。一人は聴力障害があり、一人は車椅子の方。友人と学習会に参加したくとも条件がありませんでした。今回のセミナーでは要約字幕があり、筆記通訳の組織なしで参加できました。笑いのタイミングが一瞬ずれましたが、ありがたかったです。加藤周一さんの、9条を守る仲間を広げること、深めること、私たちの誰もがやらない、やれないやり方を考えていかななくてはと考えています。(66歳・女・無職)

▼事前告知により、自由に参加できるセミナーは良かったです。あくまでも個人で聞きたい人が参加できるというのは、九条の会らしくてよかった。澤地さんのあふれるおもしろい、辻井さんのいろいろな切り口からの思考のポイント、いま勝つためには、あらゆることをしなければならないと思います。タブーを乗り越え、改憲勢力をとりかこみ、切り崩しましょう。9条大事だよね!と。(42歳・女・会社員)

▼九条の会のことは新聞でみたり、となりの区でやっている人がいてさそわれて参加したことがあります。なんとか自分のまわりの人と気軽に9条の話ができるように

と思って今日、参加しました。若い人にも積極的に話しかけてみたいと思いました。

(63歳・女・アルバイトをやっている主婦)

▼加藤先生の、憲法9条と独立の2つを軸に4つの基本戦略をめぐる議論は、たいへん説得力がありました。

澤地さんのお話は今回もとても胸を打つ、感動的なお話でした。澤地さんの世代が元氣でご活躍であることが、今日の日本の救いです。どうして私の世代はダメなんでしょうとつくづく思います。

辻井さんのお話は、ユーモアを交えて教育の問題、外交のこと経済のこと興味深くお聞きしました。なぜ選挙になると破たんさせた側が勝つのか、重要な問題提起と思います。(52歳・男・サラリーマン)

▼30歳を過ぎ、仕事、家族、そして自分自身のこと、仲間のこと、考えることが増えてきました。私が人として選ぶ道と、公務員として歩む道を真剣に考えたら、やっぱり憲法とくに9条、そして教育基本法を改正させてはならないと思います。赤紙は絶対に配りたくない。9条と憲法を守りきるために、ちょっぴり若手の一人として今日からまた学び歩いていきたい。今日はありがとうございました。(32歳・女・公務員)

▼(「若い人を仲間にするには?」との質問に、澤地さんが「いろいろな映画を見て大切な人について語り合っては」と助言))恋愛映画はあまり好きではないけれど、コメディでも何にでも、大切な人という存在について考えさせられるものがあると思いますので、私も明日から友人を映画に連れて行こうと思います。分りやすく有効な手段(?)を示してください、ありがとうございました。(24歳・女・会社員)